

# 旅 アト

世界の課題や取り組み事例について調べてみよう。

- 世界の巨大都市(人口1,000万人以上)にある課題
- スラム街の課題
- 災害発生時のまちへの影響 など

身近な課題や取り組み事例について調べてみよう。

- 安心して暮らせる強いまちとは

SDGsゴールを自分の言葉で訳してみよう。

**11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES**  
**Sustainable Cities and Communities**  
**Make cities and human settlements inclusive, safe, resilient and sustainable**

〈参考:外務省訳〉「住み続けられるまちづくりを」 包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

富山市の事例をもとに地域や世界に対して、自分でできることを考えてみよう。

都市の理想を、富山から。



SDGs 未来都市  
TOYAMA

# 未来へつなぐコンパクトなまちづくり

Sustainable Development Goals



- ◎ 高齢者になっても暮らしやすいまち
- ◎ 車がなくても移動に困らないまち
- ◎ まちに賑わいと活気のあるまち



- 課題**
- 少子高齢化
  - 公共交通の衰退
  - かさばる行政コスト

**「串」**  
一定以上のサービス水準の公共交通

**「お団子」**  
串で結ばれた徒歩圏

- 凡 例
- 鉄道・路面電車・バスサービス
  - 鉄道サービス
  - バスサービス
  - 都心
  - 地域生活拠点



▲お団子と串の都市構造の概念図

富山市は人口減少が全国的な課題と認識される前から、他都市に先駆けて、持続可能な都市経営を実現するため、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」というビジョンのもと、様々な分野の施策に取り組んできました。そのイメージは「お団子と串の都市構造」です。「串」は公共交通を表し、「お団子」は公共交通で結ばれた徒歩圏を表します。

このコンパクトなまちづくりを実現するための3つの柱となるのが、「公共交通の活性化」「公共交通沿線地区への居住誘導」「中心市街地の活性化」です。「串」を活性化させ、「お団子」に住まいやお店などを誘導し、地域の拠点に賑わいを持たせようという政策で、3つの柱に沿った様々な取り組みが20年にわたって展開されています。こうした取組の結果、便利な公共交通沿線に居住する人の割合は、2005年の約28%から2021年現在は約39.9%まで上昇しています。2025年には約42%とすることを目標に、さらなる取り組みを進めているところです。

**1 公共交通の活性化**

富山ライトレール(2006年) 市内電車環状線(2009年)

---

**2 公共交通沿線地区への居住誘導**

LRT沿線居住誘導 まちなかで質の高い暮らし

---

**3 中心市街地の活性化**

グランドプラザ(2006年) トランジットモール社会実験(2015年)

▲富山市の施策の3本柱

# 旅 マエ

考えてみよう。調べてみよう。わからないことを書き出してみよう。

- LRTの特徴、LRTの導入意義、目的を調べよう
- 人口密度の低い都市の課題を考えてみよう

年 組 名 前



### 1 公共交通の活性化

#### ◎全長15kmに渡るLRTネットワークの形成

リーディングプロジェクトとして実施されたのは廃線となることになったJR富山港線を2006年にLRTとして再生・活性化させるものでした。ヨーロッパで導入されているような近代型の車両は、低床で誰にも利用しやすく、停留場を短い距離で設け、運行頻度を上げることで、新たな利用者を生み、高齢者の外出機会創出にもつながっています。また既存路線の一部を延伸し、①新たな環状線の運行(2009年)、②富山駅高架下への市内電車の乗り入れ(2015年)、③富山駅内での富山港線と市内電車とをつなげる南北接続(2020年)を実現しています。

#### ◎新幹線と路面電車が立体的に交差する駅は世界でも珍しい!

改札を出ると、目の前に路面電車が見え、平面移動で(垂直移動がない)様々な交通にアクセスができます。富山駅にアクセスする公共交通も、鉄道に新たな駅を設けたり、コミュニティバスや、グリーンスローモビリティの運行を行い、活性化させています。また、パリと同じタイプのシェアサイクル(アヴィレ)を23箇所設置し、気軽な移動をサポートしています。

#### ●富山駅路面電車の今昔

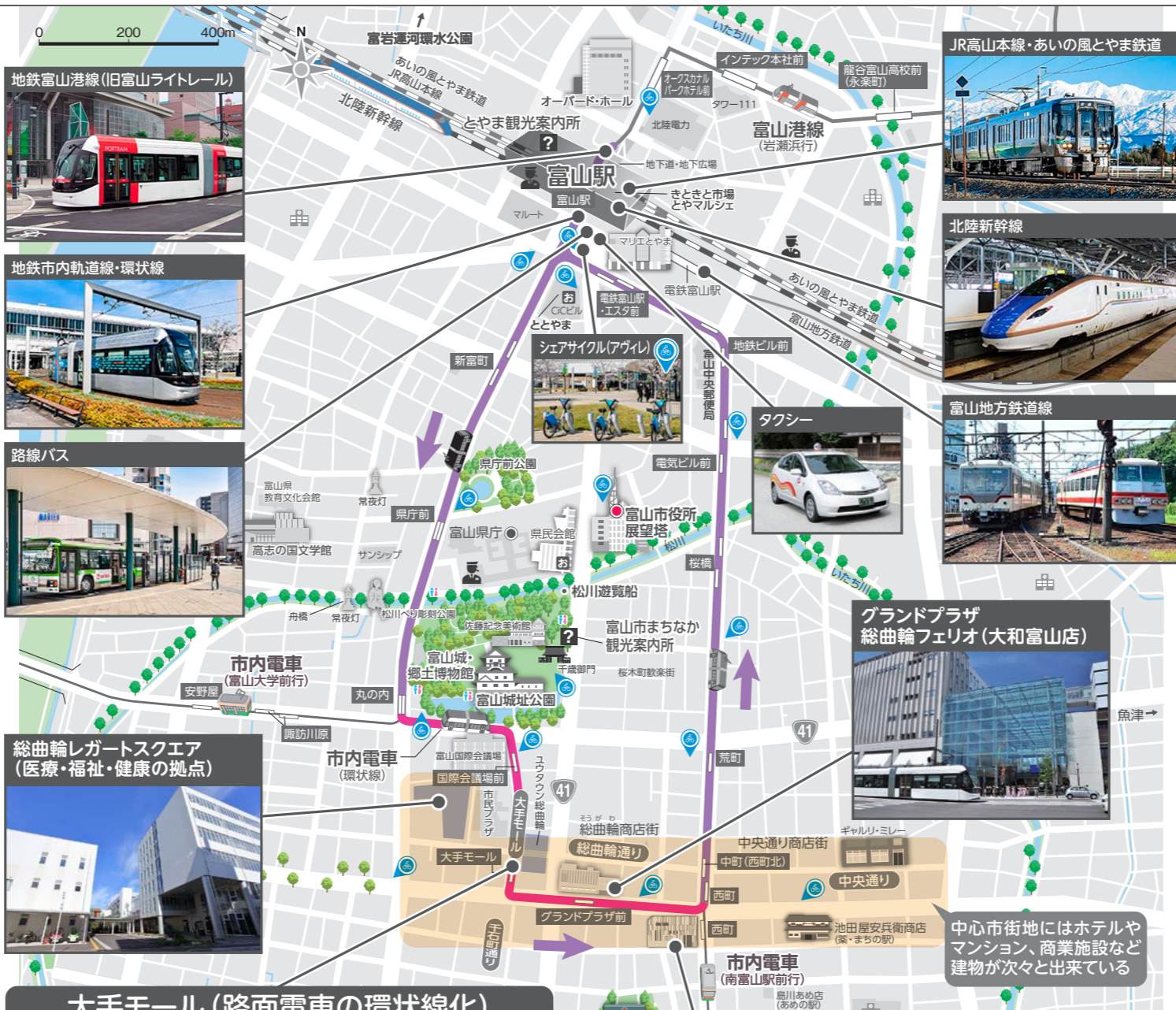


路面電車の停留場が富山駅構内になったため、朝の通勤ラッシュ時は、道路にはみ出して電車を待つなど危険な状態でしたが、雨などを気にせず安全・快適な環境になりました。

#### ●ガラスのまちづくり



フロアシャンデリア トランジット・ライティング・ウォール  
駅には安全性の配慮から大きなシャンデリアなどは設置できないため、床に特殊なガラスブロックを張り、天井から多彩な光を当て、反射光でシャンデリアのような華やかさを演出。路面電車の停留場壁面も富山ガラス工房が製作した工芸ガラスのピースをはめ込んだトランジット・ライティング・ウォールで装飾しています。



#### 大手モール(路面電車の環状線化)

約1.5km離れた富山駅と中心市街地をぐるぐる回れるようにして、移動しやすく。

**路線概要**  
開業日:平成21年12月23日  
延長:約0.9km

#### TOYAMAキラリ(富山市ガラス美術館・市立図書館)



開館時からの来館者数  
422万人(令和3年3月末)

ガラス美術館と市立図書館等が入る複合施設。設計は隈研吾氏(国立競技場の設計者)、県産木材をふんだんに使用。

### 2 公共交通沿線への居住誘導

コンパクトなまちづくりの実現に向け、「お団子」である居住推進地区へ緩やかに居住を誘導するため、質の良い住宅を供給する事業者や、住宅を新築・購入または賃貸で入居する市民に対して支援しています。その結果、エリア内に多くのマンション開発や、新規転入、転居が起こってきています。

### 3 中心市街地の活性化

◎まちなかの新たな日常づくり  
まちなかの賑わい広場として中心市街地の活性化の拠点「グランドプラザ」を整備しました。雨が多い富山の気候に配慮しつつ、開放感を演出するガラスの屋根のかかった全天候型の広場で、通常時は広々とした広場として、イベント時には床下に収納されている倉庫がステージとなり、電源や給排水を自由に使って多彩な催しができます。年間100以上のイベントが催され、休日はいつも賑わっています。平日はゆったりと会話や読書を楽しむ風景が街の中に定着し、訪れる人の生活の質の向上に繋がっています。また、駅構内にも幅の広い自由通路を設け、イベントがしやすい環境を整備し、駅利用者や来街者に駅での時間も楽しんでもらえるようにしています。大手モールでは車を通行止めにし、LRTと歩行者だけが行き交うトランジットモールとする社会実験も行われ、当日は通常時の5~10倍の人出で賑わいます。また、ガラスのまちづくりを象徴する「ガラス美術館」が市内中心部の象徴的なエリアに開館し、図書館やカフェも併設した複合施設で、市民と訪れる人が行き交う新たな賑わいの場となっています。

#### ●グランドプラザ(賑わい広場)



エコリンク 段ボール迷路

### まちで目に付く! 気になるアレコレ

#### ●フラワーハンギング、バナーフラッグ



まちなかに彩りを持たせ、楽しく歩いてもらうために花やバナー(旗)を飾り、都市景観の向上にもつながっています。

#### ●AMAZING TOYAMA



市民が富山市に愛着や誇りを抱き、都市の認知度とイメージを高めることを目的とした、シビックプライドの醸成に向けたキャッチコピー。AMAZING: 驚くほど見事な様子

#### ●とほ活



自動車に頼った生活から、歩く生活への転換を促すためのキャッチコピーで「富山で歩く生活」の略。歩数や公共交通の利用などでポイントがもらえるスマホアプリやベンチの設置など、歩ききっかけや歩きくなる環境づくりを進めています。

まちを観察しながら、気になったものを書いてみよう。